

感染入力遅れ 新たに9200件

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」による感染急拡大が続く中、大阪府は8日、「医療非常事態」を宣言した。府内の重症中等症病床の使用率は7日に100%を超えて、重症患者の増加も加速している。医療非常事態宣言は2020年12月、21年4月に続いて3回目となる。

府内の8日の新規感染者を踏まえて入院対象を絞つておらず、70代以上が7割以上を占める。

大阪市保健所の代行能力超える

新型コロナ感染者の発生届のシステム「ハーシス」で医療機関から提出された発生届を締約する。市は8日、新たに発生届9200件のハーヒス入力が遅れていたと発表した。3日発表の1万2700件の遅れを優先して処理した影響だといふ。感染急拡大は全国共通の状況だが、なぜか大阪市だけで問題となつてゐるのか。厚労省は感染者情報把握

府内の8日の新規感染者を踏まえて入院対象を絞つておらず、70代以上が7割以上を占める。

新型コロナ感染者の発生届のシステム「ハーシス」で医療機関から提出された発生届を締約する。市は8日、新たに発生届9200件のハーヒス入力が遅れていたと発表した。3日発表の1万2700件の遅れを優先して処理した影響だといふ。感染急拡大は

治体は他に把握していない。感染急拡大は大阪市だけで問題となつてゐるのか。厚労省は感染者情報把握

大阪「医療非常事態」

宣言3回目

救急搬送に48時間 大阪市、最長

7日には府が確保する軽症中等症病床（3183床）の使用率が103・5%に到達。265人は医療機関が臨時に設けた病床で

治療を受けている。医療機関に対し、不急の入院・手術を延期するなど一般医療を一部制限してコロナ患者を受け入れることを要請した。

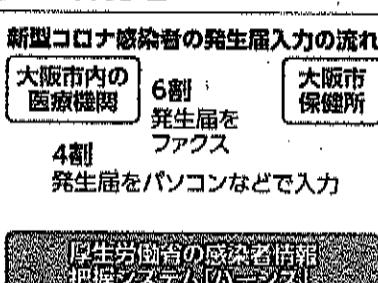
口ナ重症病床で治療を受けている21人を含めた実際の使用率は25・7%になる。府は7日、重症病床の運用レベルを2番目に深刻な状況に対応する「フェーズ4（非常事態）」に引き上げた。

医療機関などによると、市消防局などによると、待機時間が48時間18分だった

救急搬送の滞りも深刻になつていい。大阪市ではコロナ患者の待機時間が過去一時間53分かかった「第4

波」の事例を上回った。市消防局などによると、待機時間が48時間18分だった

（久保田猪四郎、新谷平布美）



し、大阪市では医療機関による直接入力は4割となり、市保健所による代行入力が8割となる。

市はこうした状況に加え、想定を上回る感染拡大で市保健所の代行入力が追いつかなくなつたことが入力遅れの原因だとする。

もう一つの原因として、1月下旬の1週間にわたるハーヒスの不具合を挙げる。システムがフリーズしたり、アクセスしづらかったりしたという。

（鷹田樹紀）

生じたのは1月19～20日の午後がかったことが原因だとみられ、サーバーの回線

感染者の急増で医療機関や自治体からのアクセスが集中し、サーバーに過剰な負荷がかかったことが原因だ

とみられ、感染者の急増で医療機関や

自治体からのアクセスが集中し、サーバーに過剰な負